

平成29年度  
群馬県図書館協会会報

No. 12 (平30.3.31)

平成29年度の群馬県図書館協会の活動を御報告いたします。

- 1 第1回代議員会報告 . . . . . P1
- 2 第15回群馬県図書館大会報告 . . . . . P2~4
- 3 研修報告
  - (1) 図書館(室)職員初級研修 . . . . . P5
  - (2) 図書館(室)職員実務研修 . . . . . P6~7
  - (3) 図書館(室)職員専門研修 . . . . . P8~9
- 4 各加盟団体活動報告
  - (1) 群馬県公共図書館協議会 . . . . . P10~13
  - (2) 群馬県大学図書館協議会 . . . . . P14
  - (3) 群馬県高等学校教育研究会図書館部会 . . . . . P15~16
  - (4) 群馬県小中学校教育研究会学校図書館部会 . . . . . P17~18

発行：群馬県図書館協会（事務局：群馬県立図書館内）

加盟団体  
群馬県公共図書館協議会  
群馬県大学図書館協議会  
群馬県高等学校教育研究会図書館部会  
群馬県小中学校教育研究会学校図書館部会  
群馬県立図書館

# 第 1 回 代 議 員 会 報 告

平成 29 年 6 月 9 日（金）、県立図書館 3 階研修室において、各団体の代議員出席のもと、群馬県図書館協会の第 1 回代議員会が開催されました。

はじめに、中山会長（群馬県立図書館長）の挨拶があり、引き続き議事に入りました。

## 議 題

### 1 群馬県図書館協会関係

- (1) 平成 28 年度群馬県図書館協会事業報告について
- (2) 平成 28 年度群馬県図書館協会決算について
- (3) 平成 28 年度群馬県図書館協会会計監査報告について
- (4) 平成 29 年度群馬県図書館協会事業計画（案）について
- (5) 平成 29 年度群馬県図書館協会予算（案）について

### 2 群馬県読書推進運動協議会関係

- (1) 平成 28 年度群馬県読書推進運動協議会事業報告について
- (2) 平成 28 年度群馬県読書推進運動協議会決算報告について
- (3) 平成 28 年度会計監査報告について
- (4) 平成 29 年度群馬県読書推進運動協議会事業計画（案）について
- (5) 平成 29 年度群馬県読書推進運動協議会予算（案）について

### 3 監事の指名について

高崎経済大学図書館 塩川 恵理子 氏

### 4 第 15 回群馬県図書館大会の開催について

事務局から提出され承認されました。

# 第15回 群馬県図書館大会報告

## 未来につなげる図書館 ー広げる・伝えるー

日 時：平成29年11月30日（木）10時～16時30分

場 所：群馬県立図書館

日 程：

### 1 式典（10：00～10：30）（県立図書館ホール）

- (1) 主催者挨拶 群馬県図書館協会長  
中山 勝文（群馬県立図書館長）
- (2) 来賓祝辞 群馬県教育委員会教育長（代理）  
北爪 清（群馬県教育次長）
- (3) 後援・加盟団体紹介〔略〕
- (4) 表彰式
  - ①優良図書館群馬県教育委員会表彰 千代田町立山屋記念図書館
  - ②群馬県読み聞かせボランティア顕彰
    - ・朗読と話し方 クッションの会（前橋市）
    - ・月・木お話しの会（高崎市）
    - ・坂東小 オレンジの会（伊勢崎市）
    - ・お話の会 チロヌップ（南牧村）
    - ・桐生市立新里図書館 読み聞かせの会 たかさん（桐生市）
  - ③優良読書グループ表彰伝達 邑楽町立図書館 オリーブ（邑楽町）
  - ④全国公共図書館協議会表彰 寺澤 敬子（元・群馬県立図書館協議会委員）



## 2 記念講演（10：30～12：00）（県立図書館ホール 参加者149名）

### 「あなたは次代に何を継ぎたいか」

森田 秀之 氏 （株式会社マナビノタネ代表取締役）

#### 《概要》

全国さまざまな図書館の開館支援をおこなっている、株式会社マナビノタネ代表取締役の森田秀之氏をお招きし、記念講演をおこなった。

森田氏がおこなっている新しい試みや新しい図書館の構造やありかたについてのお話、様々な本の紹介もあった。

講演の中で、森田氏は以下の施設の開館や開発に携わった事例を取り上げ、お話して下さった。



#### ①「仙台メディアテイク」の立ち上げ

400席をつくり、加えて有料席を設けた。この雑収入でイベントを行った。

#### ②「島根県立博物館」の開館支援

ダブリンコアの構造を用いたデータベースを作った。

#### ③「武蔵野プレイス」の開館支援

入口は図書館という雰囲気ではなく、「だれでもおいでよ」という雰囲気にした。裏側にはカフェを設け、その売上金でカルチャーイベントを立ち上げるようにした。

#### ④「宮崎県都城市のショッピングモール」の開発

典型的なショッピングモールの建築を生かそうと考えている。入口に少しだけ展示をし、中にはどんなものがあるのだろうと興味を誘うような「例示」をする。もっと知りたいという思いが高まると、中に入って行って、椅子に座り、やがて自発的な活動が始まり、連鎖的な空間をつくることができる。

森田秀之氏による記念講演は、全国の図書館や施設の開館や開発に携わった際の新しい試みや視点が盛り込まれた大変内容の濃いお話であった。

参加者からは、「とても良い刺激をもらった講演だった」、「図書館としてできることを実践する手がかりをもらいました」などの意見が多く寄せられ、参加者にとって大変有意義な時間になったことがうかがえた。



### 3 テーマ別分科会（13：00～16：30）

#### （1）第1分科会（県立図書館ホール 参加者91名）

魅せる本棚、つくりませんか

有限会社BACH代表であり、ブックディレクターの幅允孝氏を講師にお迎えし、分科会を行った。

「図書館の仕事、たのしめますか」と題した講演では、本を手渡す相手への丁寧なインタビューから関心領域を把握する方法や、次々に興味がわくような本の並べ方、本を手にとってもらう環境へのこだわりなど、豊富な体験に基づく示唆に富んだお話で、大変好評であった。

その後に行われたワークショップは、前橋市立図書館・玉村町立図書館・桐生市立図書館・吉岡町立図書館・群馬県立図書館の5館がサンプル本棚を作成し、幅氏の講評やアドバイスをいただく形で進められた。説明者も参加者も満足度の高い構成とすることができた。



#### （2）第2分科会（県立図書館 3F研修室 参加者59名）

利用者を増やすために図書館ができること —各館の広報活動や図書館行事の実践—

「持ち寄り、見つけ、分け合う広場」をコンセプトに、市民に親しまれる図書館づくりをすすめ、Library of the year 2017 大賞を受賞した岡山県の瀬戸内市民図書館長の嶋田学氏をお迎えし、分科会を行った。

「機会をフル活用するPR～連携で広げよう図書館の輪～」と題した講演では、利用者を増やすために図書館ができること、何ができるか、何をすべきかについてバイタリティあふれるお話を伺った。

その後、沼田市立図書館・群馬大学総合情報メディアセンター中央図書館・群馬県立玉村高等学校・群馬県立伊勢崎興陽高等学校からの事例報告とパネルディスカッションが行われた。活発な意見交換が行われ、各館の活動内容や、イベント・広報活動の意義・取り組み方についてより理解を深めることができた。

参加者アンケートからも「参考となるお話をたくさん聞くことができた。」などの意見が多く寄せられ、大変有意義な分科会であった。



## 図書館(室)職員初級研修「はじめの一步」

平成 29 年度に図書館(室)に異動、採用となった職員(正規・非正規を問わず)を対象に行う研修で、図書館の基礎的な事項、用語の説明、心構え、利用者対応等、基本的事項をはじめ、業務に役立つ内容の研修を実施した。

県図書館協会の主催事業であり、公共図書館、学校図書館、公民館図書室等、県内の図書館(室)関係者が集う研修となっている。このため、全ての館種に共通した話題を提供することも求められ、館種ごとに話題を深めることが重要とされるが、今回の研修では残念ながら公共図書館の話題が中心となり、反省事項として次年度の改善につなげていきたい。なお、参加者からは以下のように高い評価を得ている。

実施日：平成 28 年 4 月 27 日(木)

参加者：61 名



参加者の声を一部紹介する

- ・ どの講座も大変参考になりました。
- ・ 個々の研修時間がもう少しだけ長くても良いかと思いました。
- ・ 図書館のあり方や役割を学ばせていただきました。
- ・ 各講師の方々が深い知識を分かり易く教えていただいて有意義でした。
- ・ 様々な館種の職員が参加するので午前中は図書館サービスの一般的なこと、午後は館種ごとの研修に分けてもらっても良い。
- ・ 県内の図書館で職員が意見交換できる場を今後も希望します。

## 第1回 図書館（室）職員実務研修

日 時：平成29年9月28日（木） 10時20分～15時00分

場 所：群馬県立図書館 3階 ホール、2階 調査相談室

参加者：83名（①講義61名、②講義50名）※参加者は実人数

講 義：① 講義・演習「郷土関係のレファレンス演習について」

関口 裕子 氏（群馬県立図書館 調査相談係）

② 講義「地域と図書館～長野県での取り組みについて」

平賀 研也 氏（県立長野図書館 館長）

### 《概要》

① 講義・演習「郷土関係のレファレンス演習について」

講師：関口 裕子 氏（群馬県立図書館 調査相談係）

利用者よりレファレンスを受けることが多い郷土関係の事柄について演習を実施した。グループに分かれ、それぞれの課題について調査相談室の資料等を活用して課題解決に取り組んだ。その後調査のプロセスを中心に発表を行った。



### 《参加者の意見等》

「他の図書館の方と調べることができ刺激になった」、「郷土レファレンスの実際を体験できてよかった」といった声が多くみられ実際の業務につながる研修であった。

### 《概要》

② 講義「地域と図書館～長野県での取り組みについて」

講師：平賀 研也 氏（県立長野図書館 館長）

平賀館長のこれまでの経験をもとにお話をいただいた。地域の方と共に図書館をつくっていくという「共知・共創」という熱い想いが心に突き刺さるお話であった。具体的な事例や話題をもとにお話をいただき大変多くを学ぶことができた。



### 《参加者の意見等》

「長野県での取り組みが目からウロコな情報がありためになった」、「この研修を参考に新しいことに取り組みたい」といった声が多くみられた。

## 第2回 図書館（室）職員実務研修

日時：平成29年12月21日（木） 10時20分～15時00分

場所：群馬県立図書館 3階 ホール

参加者：58名（③講義43名、④講義41名）※参加者は実人数

講義：③ 講義「認知症と図書館」

舟田 彰 氏（川崎市立宮前図書館）

④ 講義「絵本の庭への招待－絵本の選び方と読み聞かせ」

床井 文子 氏（東京子ども図書館）

### 《概要》

#### ③ 講義「認知症と図書館」

講師：舟田 彰 氏（川崎市立宮前図書館）

「認知症の人にやさしい図書館」として先進的な取り組みを行っている川崎市立宮前図書館の具体的な事例を多く取り上げてお話をしていただいた。超高齢社会という決して目を背けることのできない問題に対し、図書館職員としてどのような取り組みができるのかを考えさせられる内容であった。

#### 《参加者の意見等》

「実際に認知症の利用者さんがいるため参考になった」、「他機関との連携を考えていきたい」といった次のステップにつながるような声が多くみられた。



### 《概要》

#### ④ 講義「絵本の庭への招待－絵本の選び方と読み聞かせ」

講師：床井 文子 氏（東京子ども図書館）

子どもに読んであげる本を丁寧に選ぶことの大切さを改めて実感できた研修であった。講師による読み聞かせでは声のトーンや話すスピード等について多くを学ぶことができた。簡単な手遊び等も交えてお話をしていただき実践的な研修であった。

#### 《参加者の意見等》

「講師の先生に読み聞かせをしてもらい大変勉強になった」、「先生に提示していただいた参考文献をこれから読んで勉強したい」といった声が多くみられた。



# 大学図書館研究会・群馬県図書館協会専門研修

(群馬県大学図書館協議会・群馬県図書館協会 共催)

## ○平成29年度第1回

テーマ：「カウンター対応を考える～クレーマー対策～」

日時：平成29年9月6日（水）13時30分～16時00分

場所：放送大学群馬学習センター第1講義室、遠隔学習室

参加者：47名（大学図書館23名、公立図書館22名、高校図書館2名）

講演：「クレーマーにどう対処すべきか」

ゆあーず行政書士事務所代表 森本 哲 氏

意見交換：「あんなクレーム、こんなクレーム」

## 概要

図書館には不特定多数かつ多様な利用者が来館します。うちの館は大丈夫と想着いても、これからも大丈夫かは分かりません。少人数で対応している館も少なくない県内の図書館において、クレーマーに対する心構え、線引き（ここからは警察を呼ぶ等）を学んでおくことは、今の時代には必要かもしれません。

元警察官である行政書士の森本氏の講演により、クレーマー、特にクレーマー化しやすい傾向にある高齢者の性質や動向について学び、後半の意見交換ではグループごとに各館が実際に直面しているクレームについて情報を共有しました。



(会場・放送大学)



(田中会長)



(森本講師)



(講演の様子)



(意見交換会の様子)



## 参加者の意見等

- 元警察官の方から貴重なお話が聞けてよかったです。自館にもお年寄りが沢山来られるので、今日聞いたお話を生かして接していこうと思います。意見交換の時間もすごくタメになりました。
- クレーム対応は公共、大学、図書館の別を問わず共通の課題と思うのでよかった。
- いろいろ気づきがありました。ありがとうございます。ちょっとこうしたらいいのかも…ということは、自館に戻り発信していこうと思います。

等の感想が寄せられ、有意義な研究会となった。

# 大学図書館研究会・群馬県図書館協会専門研修

(群馬県大学図書館協議会・群馬県図書館協会 共催)

## ○平成29年度第2回

テーマ：「図書館が地域にできること」

日時：平成30年3月6日（火）14時00分～16時00分

場所：群馬大学総合情報メディアセンター中央図書館 ラーニングcommons「アゴラ」セミナー室

参加者：84名（大学図書館23名、公立図書館22名、高校図書館2名、一般37名）

講演：「「あたらしい地方」を編集し、発信するソーシャルな視点」

雑誌『ソトコト』編集長 指出 一正 氏

### 概要

雑誌『ソトコト』の編集長で、全国各地で地方の活性化に貢献されている指出一正氏を講師に迎え、ご自身の活動をご紹介していただいたほか、雑誌編集長として、ソーシャルな情報発信についてお話しいただきました。これからの時代は、単なる人口増を目指すのではなく、「関係人口」を必要とすること、地域のいくつかの点を結ぶことで実現する「エリアリノベーション」、今の若者を惹きつけるソーシャルな情報発信の方法など、非常に興味深い内容の講演でした。

群馬県高崎市出身である指出氏からは、群馬県の図書館員へのメッセージもいただきました。また、今回の研究会は、一般公開とし、一般市民の参加も多数ありました。



(会場・群馬大学)



(指出講師)



(講演の様子)

### 参加者の意見等

- 地方創生のために実例を交えて話をしてもらいとてもわかりやすかった。
- 小さいこと、目の前にあるもの、そこをもっと見つめて行きたいと感じました。まず私が自分ごととして考えていけるように意識する機会となりました。
- 「マイパブリック」大学図書館という特殊な環境ですが、地域に対して、学生に対して、そういう場所を提供できるよう頑張っていければと思います。
- 居場所と出番について深く感銘を受けました。どんな集団においても、全員の居場所があるように、その居場所を一緒に探してあげることがやさしさだと思います。
- ずっと聞きたかった指出さんの話を聞いてよかったです。たくさんの「気づき」がありました。ありがとうございました。

等の感想が寄せられ、有意義な研究会となりました。

# 群馬県公共図書館協議会市町村図書館・公民館図書室運営研究部会研修

- 1 日 時 平成30年2月6日（火） 午前10時00分から
- 2 会 場 群馬県立図書館 研修室（3階）
- 3 参加者 24名
- 4 演 題 「公共図書館運営の動向と展望」
- 5 講 師 叶多泰彦 氏（市川市中央図書館 主幹）
- 6 日 程 【受付開始】午前9時30分から  
【講演会】 午前10時00分から午後12時30分まで

## 7 概要

### （1）目的

県内図書館の職員の資質向上並びに市町村図書館（室）の情報交換、交流を目的として、研修を実施した。

### （2）内容

公共図書館の運営について、DIKWモデルを軸に自身の経験やデータを織り交ぜながら論理的に講演が行われた。特に、動向を踏まえた図書館運営のためには、情報を扱う職業人として情報リテラシーの3つの能力（情報へのアクセス・評価・活用）を発揮するが必要であることを強調していた。また、図書館の今後と可能性として、Collection（蔵書）から Connection（つながり）への対応が急務で、中でも国立国会図書館の図書館向けデジタル化資料送信サービスの活用は不可欠なものであるとした。

群馬県と栃木県とのデータ比較など、身近な例をあげながらの説明もあり、親しみやすい講演であった。同時に、今後どのように図書館運営を行っていくべきなのかを理解する上でたいへん有益なものであった。

## 8 参加者の声（主なもの）

- ・社会教育機関として、群馬県内の図書館の1. 現状と分析 2. あり方 3. 連携と提携 4. 共通な問題点の検討などを図書館協議会でチームを立ち上げて検討すべきと考える。
- ・「コレクションからコネクション」とても参考になった。
- ・国立国会図書館のデジタル化資料送信サービス活用館を県内に増やすことが緊急の課題だと認識した。
- ・話がわかりやすく、声のトーンや早さも良く聞きやすかった。
- ・読むべき本、資料を明示してもらって参考になった。
- ・「情報リテラシー」という言葉にかなり刺激を受けた。
- ・図書にかかわる仕事について2年目だが、今日の話聞いて目指す方向が少しわかったような気がする。
- ・法令や政策、指定管理に触れた話は自分の知識が追いつかず大変難しかったが、日本だけでなく世界の図書館の情報もあって幅広い話を聞いてよかった。
- ・今後の図書館のありかたについて、職員は温故知新、フットワーク軽く、勉強熱心でいなければならないと改めて考えさせられた。
- ・情報を収集し、分析する能力が大切だというのは大変参考になった。
- ・図書館としてこれから何をしていくべきか、大変参考になった。
- ・具体的な話で、理解しやすい研修だった。
- ・今回の研修は経営・運営面で大変参考になった。

# 群馬県公共図書館協議会 地域資料・レファレンス研究部会研修

日時：平成30年1月18日（金）午後1時～4時

会場：群馬県立図書館 3階ホール

参加者：39名

内容：講義「地域資料が活きる！」

ウィキペディアタウンなどのオープンデータを活用した図書館サービス」

ワークショップ「どうしたら地域資料がもっと活用されるか」

講師 是住久美子氏（京都府立図書館）

## 概要

オープンデータとは、二次利用が可能なルールで公開されたデータのこと、営利・非営利関係なく、誰でも自由に加工できるデータのことである。京都府立図書館では、講師の是住氏を中心に「ししよまろはん」というグループで、京都が出てくる本のデータをオープンデータとして作成し公開している。

ウィキペディアタウンとは、その地域にある文化財や観光名所などの情報をインターネット上の百科事典「ウィキペディア」に掲載し、アクセスの容易さを実現した街のことである。京都では、住民がまち歩きをして、自分たちでウィキペディアを作成。その際に図書館で郷土資料などを提供しているとのことであった。ウィキペディアは検索すると一番上にくることから、HPより広く見られる。地域の情報をオープンデータとしてウィキペディアに公開するととても有効であるとのことであった。地域資料を活かす新たな方法として、大変参考になる講演であった。

また、ワークショップでは、4～5人のグループに分かれ、「どうしたら地域資料がもっと活用されるか」というテーマで話し合った。予算や人員を考えずに、思いついたアイデアを付箋に書いていき、グループ内で発表しあい、模造紙に貼っていき、似たアイデア同士をグルーピングし、1人3票、いいと思ったアイデアにシールを貼る。最後にグループごとに発表した。ワークショップということで参加者は最初緊張していたが、和気あいあいといろいろなアイデアを出すことができ、とても有意義な研修会であった。

## 参加者の声（主なもの）

- ・ウィキペディアなどを利用しての地域資料の作成等、興味深いお話が沢山聞けて良かった。自分の図書館でも何か行事の時に利用する事を考えたい。ワークショップすごく楽しかった。
- ・地域資料の整備・公開には莫大な予算がかかると思いこんでいたが、こういう方法があるんだ！と目からウロコだった。
- ・とても参考になった。オープンデータについて理解を深めることができた。
- ・オープンデータの活用について、非常に興味をもてた。今後活かしたい。
- ・苦手な地域資料について、改めて向き合うことができた。他の図書館の方と交流できてよかった。
- ・ウィキペディアの使い方を有効にできればすばらしい利用方法がうまれるのではと、可能性に期待。
- ・ワークショップはとても楽しかった。他館の取り組み等も知ることができた。アイデアの視覚化は参考になった。ウィキペディアタウンは、ぜひ挑戦してみたい。
- ・ウィキペディアについて、親しみがさらに沸いた。郷土情報の発信に挑戦したいと思った。
- ・デジタルアーカイブ、ウィキペディアタウンに興味があり参加した。とてもよい内容だった。
- ・ウィキペディアを新規で市民の方が作成・発信するというのが素晴らしいと思った。

## 群馬県公共図書館協議会 児童・青少年サービス研究部会研修

日 時：平成30年2月6日（火） 午後1時30分から

会 場：群馬県立図書館 3階 研修室

参加者：34名

演 題：「子どもの本を選ぶ」

講 師：明定 義人 氏（京都橘大学文学部歴史遺産学科教授）

### 概 要

図書館における児童向けの選書は、長らく「団塊の世代」を中心に行われていた。この世代の選書は、子どもに「良い本」「正しい本」「健全な本」を与えようという理念を元に行われていた。例えば、海外児童文学なら、「抄訳」はダメ。「完訳」された「本物」の「良書」「適書」を子どもに与えよう、という考え方である。そのような認識の下、多くの図書館が、東京子ども図書館の蔵書を参考にしたり、作者によって置く、置かないを決める、あまり悩まない、安易な選書を行ってきた。

しかし、図書館は「自主的に図書館に来館し、本をたくさん読む頭のいい子」だけの場所ではない。例えば、発達障害児・LDの子には、完訳本よりも抄訳本の方が理解しやすいし、「かいけつゾロリ」シリーズやBL本だって置いてもいいはずだ。

時代によって「子ども」たちの置かれる環境や内面も変化している。かつての児童文学で主流だった「成長物語」を代表とする、「良い本」の中に描かれる世界と、今日の子どもの置かれた現状・感性等が違っているのは当たり前だ。1970年代以降は、目立った思春期・反抗期がなく、いい子でいつづけることに息切れて引きこもる子も増え、いわゆる「アダルト・チルドレン」や「共依存」の人も増えた。

「絵本」「児童文学」の世界も多様化してきている。1980年代頃から、イラストレーターが絵本を作ることが増え、男性作家も増えた。男性作家はマーケティングを行い、職業作家として本を作る人が多い。かつて、少女向けとされてきた「講談社青い鳥文庫」も、最近は、少年が読める本や、大人向けに発売された本の簡略本も並ぶようになった。あさのあつこ作品に代表される「子ども向けだが、大人の読書に耐えられる本」や作家も増えているし、絵本の世界でも「海のカラオケ」等、明らかに70代以上の大人向けの本が出版されている。特に「海外翻訳絵本」については、難解なものが増えた。これらの大人向け絵本を「絵本だから」と子ども向けコーナーに一律に置いておく図書館が多いが、交通整理しておかないと、本棚がぐしゃぐしゃになってしまう。絵本は絵本コーナー、と決めつけしないで、例えばノントンの歯磨き絵本を絵本コーナーの他、副本を複数用意して、児童や大人の490番台などに置くような柔軟性があってもいいだろう。

教育の世界も変わってきている。これまでは「国語」では「文学」を中心とした道徳読みが行われてきたが、今後は「日本語教育」がメインになり、文学の比重が薄れてくる。逆に、アクティブラーニングに活用される0～8番台の必要性が増すだろう。「日本のアクティブラーニング」といわれている「仮説実験研究会」では、予想（仮説）を立てて、その仮説のもとに実験を行い、その結果を論理的に分析している。教育現場でも、そうした論理的な思考を培う学問の需要が増すだろう。図書館にも今後、その手伝いができる環境が求められるようになる。

自主的に図書館に来てくれる子どもだけを大切にしているのでは、もうだめだ。自力で図書館に来られる子は少ない。親が読書や教育に熱心な家と、そうでない家とでは、教育格差もが生じてくる。本だけでなく、論理的思考を培うのに適したカルタや絵合わせ、貧困家庭では手に入らない、高価な知育玩具等も図書館で貸し出せるようにするべきだ。図書館の児童サービスも、親子に対する「直接サービス」

よりも、教師や保育園教諭、読み聞かせボランティア等の「子育て支援に関わる人たちへのサービス」が求められる。LD や発達障害の子を理解する本だけではなく、そういう障害のある子が理解できる本を、併せて図書館に備え付けることが大切だ。

子育て支援に関わる大人や学校へのサービスは、「児童サービスではない」という印象があるが、その支援が回り回って子どものためになる。学校が「図書館は使える場所」と認識すれば、教育委員会内での図書館の評価も高まるだろう。学校図書館は、先生たちがどういう授業を行うか、知っておく必要があるし、公立図書館もイベントに科学遊びなどを取り入れたり、読書感想文書き方教室などの実践につながるイベントを行うべきだと思う。

### 質疑応答

【質問】知育玩具を買いたいが、財政当局に「図書館になぜ知育玩具が必要なのか」と言われてしまう。どのようにして購入しているのか

【回答】地域の子どもを賢くするためには必要、という説明をすればいい。虐待防止のための補助金で買ったかもしれない。

### アンケート結果

#### (1) 回答

- |           |     |      |
|-----------|-----|------|
| ① 参考になった  | 17人 |      |
| ② ふつう     | 1人  |      |
| ③ わからなかった | 2人  |      |
| ④ 無回答     | 1人  | 計21人 |

#### (2) 主な意見

- ① 児童サービス対象が子どもだけではないという点に気付かされた。サービス範囲の拡大について検討してみたい
- ② 知育玩具を図書館で貸出すという発想に驚いた。児童サービスやアクティブラーニングに取り入れたい
- ③ 分類に囚われない配架について勉強になった。新しい利用者の手に届く機会にもなると思う。
- ④ 皇后や戦前の女性、団塊の世代についての表現が偏っている。題材は良いが、説明がわかりにくかった。

等

# 群馬県大学図書館協議会 平成 29 年度活動報告

## I. 事業

### 1. 「会員名簿 2017」の配布

「会員名簿 2017」を改訂し配布した。

※加盟館 21 大学（28 館）会員数 130 名。

### 2. 会報「からっかぜ通信」第 38 号、39 号の発行

第 38 号を 9 月に発行し、協議会 HP に掲載した。

※第 39 号は、3 月に発行する。

### 3. 大学図書研究会の開催

第 1 回 平成 29 年 9 月 6 日 13 時 30 分～16 時 00 分（会場：放送大学群馬学習センター）

「カウンター対応を考える～クレーマー対策～」をテーマに開催した。研究会は、ゆあーず行政書士事務所代表 森本哲氏による講演「クレーマーにどう対処すべきか」および意見交換「あんなクレーム、こんなクレーム」を実施し、47 名の参加を得た。

第 2 回 平成 30 年 3 月 6 日 14 時 00 分～16 時 00 分（会場：群馬大学中央図書館）

「図書館が地域にできること」をテーマに雑誌『ソトコト』編集長の指出一正氏の講演「「あたらしい地方」を編集し、発信するソーシャルな視点」を開催し、一般参加を含む 84 名の参加を得た。

### 4. 第 14 回群馬県図書館大会の共催

日時：平成 29 年 11 月 30 日 会場：県立図書館

分科会検討委員として加盟館員 4 名が参加した。

### 5. 「相互協力便覧 2018」の配布

3 月に本協議会のホームページに掲載する。

## II. 会議

### 1. 「会報」編集委員会 日時：平成 29 年 7 月 20 日 15：00～17：00 会場：育英短期大学図書館

第 38 号、第 39 号の編集発行について、委員会を開催し、記事内容等の検討を行った。また、表紙のデザインについては、前年度に引き続き加盟館名簿順に紹介の写真をもとに委員会で作成した（第 38 号：東洋大学、第 39 号：新島学園短期大学）。

### 2. 幹事館会議

第 1 回 日時：平成 29 年 5 月 26 日 15：00～16：15 会場：群馬大学中央図書館

本協議会の本年度の活動内容について、大学図書館研究会の開催を含め検討した。

第 2 回 メール会議

平成 29 年度の決算報告及び平成 30 年度の予算案及び事業計画について審議した。

### 3. 運営委員会 日時：平成 29 年 6 月 29 日 15：00～16：15 会場：群馬大学中央図書館

本協議会の本年度の実施事業について検討するとともに、加盟館の現在抱えている問題等について意見交換を行った。

### 4. 総会 日時：平成 30 年 3 月 6 日 13：00～13：40 会場：群馬大学中央図書館

平成 29 年度の決算報告及び平成 30 年度の予算案及び事業計画について審議するとともに、加盟館の現在抱えている問題等について意見交換を行った。

# 群馬県高等学校教育研究会図書館部会

## 1 総会及び講演会 平成29年5月1日(月) 群馬県総合教育センター

- (1) 平成28年度事業報告、会計決算報告、会計監査報告  
平成29年度役員及び幹事紹介  
平成29年度事業計画案、予算案審議
- (2) 講演会  
講師：松浦 利隆 氏(群馬県立女子大学 群馬学センター教授)  
演題：「世界遺産のつくりかた」
- (3) 地区研修会

## 2 司書研修会

〈第1回〉平成29年7月18日(火) 群馬県総合教育センター

- (1) 講演会  
演題「学校司書っておもしろいー情報サービスー」  
講師：太田 克子 氏(高崎健康福祉大学 健康福祉学部医療情報学科 図書館副館長・講師)
- (2) 分散会・ワークショップ(前半・後半)
  - ①分散会「NDC10版の学習会」
  - ②ワークショップ「群馬県高校文学散歩map」
  - ③ワークショップ「群馬県ゆかりの作家・文学者のしおり作り」
- (3) 分散会・ワークショップ報告

〈第2回〉平成29年10月23日(月) 群馬県総合教育センター

- (1) 第34回関東地区学校図書館研究大会群馬大会参加報告
- (2) 平成24～28年度 長期研修分科会総括及び次期長期研修テーマについて
- (3) ワークショップ(前半・後半)
  - 前半①実践系「『物語の法則』を知り、本の紹介に役立てよう」
  - ②日常系「司書のイチオシ本」
  - ③体験系「ワールドカフェで読書会」 課題図書『君の膵臓をたべたい』
  - 後半①企画系「主任、この企画 通しましょう！」
  - ②日常系「本の簡易修繕、カバーかけ」
  - ③体験系「ワールドカフェで読書会」 課題図書『カラフル』
- (4) ワークショップ報告

## 3 冬季研究大会並びに講演会 平成30年2月27日(火) 共愛学園前橋国際大学

- (1) 読書感想文コンクール・読書感想画コンクール表彰式及び講評
- (2) 司書研修会分散会・ワークショップ報告
- (3) 講演会  
講師：手島 仁 氏(前橋市文化スポーツ観光部参事兼前橋学センター長)  
演題：「地域学の定義と課題ー図書館の役割」
- (4) 研究協議分散会
  - ・「選書の自主研究会活動について」発表者：宮崎 好久 氏(群馬県立渋川高等学校 司書専門員)

- ・「図書館を活用し連携した授業 実践報告 英語科と図書館の協働」  
発表者：樽見 英里 氏（群馬県立松井田高等学校 教諭）  
東間 みちよ 氏（群馬県立松井田高等学校 司書専門員）
- ・「探究型学習における学校図書館の活用」  
発表者：赤井 恵美子 氏（群馬県立館林女子高等学校 教諭）

(5) 平成30・31年度司書研修委員連絡会

# 平成29年度群馬県小中学校教育研究会学校図書館部会

## 1 総会並びに幹事会

平成29年5月30日（火） みどり市厚生会館 第3会議室

## 2 第34回関東地区学校図書館研究大会（群馬大会）

平成29年8月8日（火）～9日（水） 会場：安中市松井田文化会館

・大会主題「能動的・協働的な学びを支える学校図書館」

～学校図書館の原点をふまえ、新たな実践への挑戦を～

## 3 第63回青少年読書感想文全国コンクール群馬県審査会

【第1回】 平成29年10月17日（火） みどり市厚生会館

【第2回】 平成29年11月 8日（水） みどり市厚生会館

※小学校（低・中・高）、中学校の各部より各2点、計8点を県代表作品として「全国コンクール」へ出品

※今年度は〈中学校の部課題読書〉で、群馬大学教育学部附属中学校鈴木快風さんが、全国学校図書館協議会長賞、〈中学校の部自由読書〉で、高崎市立高松中学校針尾綾乃さんが、毎日新聞社賞を受賞しました。

## 4 第29回読書感想画中央コンクール群馬県審査会

平成30年1月17日（水） みどり市厚生会館

※小学校（低・高）、中学校の各部より各4点、計12点を県代表作品として、「中央コンクール」へ出品

## 5 部会誌「学校図書館58号」

平成30年2月21日（水）発行

※昨年度より群馬県小学校中学校教育研究会 web ページに掲載

## 6 学校司書部会の主な事業

平成29年10月25日（水） 総会並びに研修会 高崎市市民活動センター ソシアス

「学校でできる！子ども達（児童・生徒）への支援」

英語で読み聞かせ 安中市東横野小 学校司書 佐藤和子

ミニビブリオバトル 邑楽町高島小 学校司書 米山玲子

読み聞かせの次どうしてる 高崎健康福祉大学 非常勤講師 小柳聡美

教科支援事例紹介 高崎入野中 学校司書 薮島明子

平成30年2月7日（水） 第2回研修会 高崎市市民活動センター ソシアス

「授業に役立つ図書室をつくるには」 講師 東京学芸大学講師 福田孝子

平成29年度 読書感想画最優秀作品

小学校低学年

【自由読書の部】



【指定読書の部】

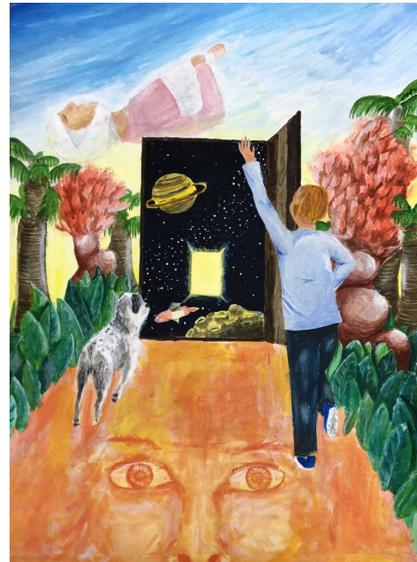


小学校高学年

【自由読書の部】



【指定読書の部】



中学校

【自由読書の部】



【指定読書の部】



平成29年度  
群馬県図書館協会会報  
NO. 12 (平30. 3. 31)

編集：発行 群馬県図書館協会

事務局 前橋市日吉町1-9-1  
群馬県立図書館内

TEL 027 (231) 3336  
FAX 027 (235) 4196